

# 競輪場 バンク“改装中”

## 特殊工法 来年2月レース再開

高知市の高知競輪場（りょうまスタジアム）が1999年の完成以来、初のバンク（走路）の張り替えを行っている。工事のため7月からレース開催は休止中。歓声の代わりにドドドドド、ウィーンと重機のうなりが響いている。

高知競輪場は、全国43場で3場のみという500級の長いコース。最大傾斜24度で、直線距離

離が短いのが特徴だ。完成から23年がたち、走路のひび割れや漏水が目立ってきたことから市が改修を決めた。予算は4億3千万円。最高時速70キロで駆け抜ける選手を支えるバンク。最大4層のアスファルトが敷かれており、それを一度削り取る。あらためて特殊な工法で、アスファルトを斜めに均一に敷き直しており、場内には



急斜面のバンク。男性は命綱を着けて作業中  
(高知市大原町、いずれも佐藤邦昭撮影)

「企業秘密なので撮影不可（施工業者）」という重機がずらり。工事は来年1月中旬ごろまで。2月初めには、以前の深い青か

ら、太平洋をイメージした明るい青に“お色直し”したバンクでレースが再開される。

(森田千尋)



斜面を測量する作業員



バンクの土台が現れた高知競輪場。  
工事の音が響いている